

機関番号：16301

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008年～2010年

課題番号：20720207

研究課題名（和文） 水田稲作模型・画像からみる漢代長江流域の稲作農耕の実態研究

研究課題名（英文） An actual situation study of Rice cultivation in a Chang Jiang basin of Han Dynasty with Pottery Model and Relief Brick of Paddy field

研究代表者

佐々木 正治 (SASAKI MASAHARU)

愛媛大学・東アジア古代鉄文化研究センター・助教

研究者番号：60457380

研究成果の概要（和文）：中国各機関収蔵資料の調査を主とし、計6度渡航し、模型・画像資料の写真撮影・実測を進め、データベースを作成した。その際、発掘調査中の墓葬遺跡を参観し、模型出土状況を確認するなど、多くの未発表資料を見ることができた。この調査を基に、基本的な考古学的分析を進め、さらに文献資料・民俗資料等も参照し総合的な研究を進めた。その成果として6本の論文発表と8回の学会発表があり、また最終年度には総合的な報告書を作成・刊行した。

研究成果の概要（英文）：This study is main by the investigation into each Chinese engine, six times in total made a voyage, take a picture and measure pottery models and relief bricks, thereby, made a database. On this occasion, I visit the tomb in during excavation, confirm the situation of a pottery model's discovery. Based on this investigation, I push forward basic archeology analysis, furthermore, refer history documents and folk documents, performed a general study. As the result of this study, I announced six articles and gave presentations at the meeting eight times, and made it and published a general report in the last year.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：中国考古学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：中国考古学・水田稲作・副葬明器・画像・長江流域

1. 研究開始当初の背景

秦漢時代社会の研究においては、その経済基盤である農業の研究が不可欠である。しかし、その中でも稲作に関する研究は従来意外と進んでいなかった。稲作の存在が当然のこととされる一方で、考古学的には当時の水田遺構等がほとんど調査されていないことが理由の一つであり、また比較的研究の進んだ

鉄製農具の場合でも、稲作に限って使われたものと限定することは難しく、古代の稲作の実態に迫るには限界がある。一部文献資料に漢代の稲作に関する記載もあるが、当時の稲作関連の文献資料は華北地域に関するものが多く、それすら断片的であり、長江流域の稲作の具体的な実情を知るには困難が伴っていた。

そういった中、四川省を中心とする中国西南地域では、漢代の陶製模型・画像磚（レンガ）が多く出土しており、そこに当時見られたであろう水稻耕作とそれに伴う貯水池・養魚池における生産活動の様子が如実に表されており、当時の生業の実態を知るための貴重な資料となっている。しかしこの種の資料に対し、従来の研究では分布の把握や型式分類・編年といった基本的な考古学的分析がほとんどなされておらず、表現された情景の解釈が中心であった。模型や画像磚は手工業生産の産物であり、その製作過程で簡略化などが進むのであり、実際の農業活動の実情をどこまで表すか、一つ一つの資料に当たって検討する必要がある。

実際、筆者は博士学位取得論文『漢代四川農業考古』（2005年四川大学）中において、一部関連資料を取り上げ、時間に従い模型が簡略化し、画像も華北地域の画像からモチーフを借りて四川の農耕画像が作られた可能性を指摘した。そうすると、模型・画像上の情景をそのまま遺物出土地域における生業活動の実態として捉えてよいかどうか問題になるのである。

2. 研究の目的

以上の状況を鑑み、本研究では、出土した水田稲作模型・画像磚の基礎的な考古学的研究を行い、遺物形態の変化をたどり、どの程度生業活動の実情が盛り込まれているかを確認し、その上で遺物に表現された情景をもとに、古代における稲作農耕の実態を探り、具体的なありようを復元していくことを目指す。

このために、大きく三つの主要目的を設定する。まず、水田模型は四川省・重慶市・陝西省南部・雲南省・貴州省の各地で出土しており、関連の画像磚は四川省で出土しているが、過去の報告資料は図面・写真の不鮮明なもの、またはないもの、博物館等の展示のみで公開されるものなどが多く、基本分析を行う時点で不便が多い。よって、現地における調査を行い、資料集成・データベース化することを第一の目的とする。

ついで、資料収集と同時に、資料の観察、実測、写真撮影等を行うが、これを基に分布状況の把握、型式分類、地理・時期的な変遷をたどり、基礎的な考古学分析を進めることを第二の目的とする。

以上を踏まえ、模型・画像資料から当時の農耕実態の要素を抽出し、漢代長江流域における水稻耕作とそれに関わる生業活動の実態を解明することを最大の目的とする。

3. 研究の方法

本研究は3年計画であり、全ての研究計画は代表者が一人で行う。上記の目的に応じ以

下のように計画・方法を設定する。

(1) まず、報告文献から水田稲作・陂塘に関する模型・画像資料の集成を進める。対象地域は四川省・重慶市・陝西省・雲南省・貴州省である。ただし、比較検討の必要のため、関連の模型・画像資料を見る必要があり、各地の史料にも目を通す。これに基づき現地での調査を開始する。主に四川大学・成都市文物考古研究所・昆明市博物館を調査ベースとして、それと同時に各地への連絡を取り、各機関での資料実見を進めた。

以上の資料収集に基づき、データベース化を進め、また随時分布図を作成する。データベース化により、将来的な資料の増加にも対応できるが、特に模型・画像資料では分かりづらい形態的特徴を客観的にとらえることができ、生業活動の風景を表す本研究の対象資料の複雑さとらわれずに、一つ一つの資料の要素を抽象化してモデル化し、型式分類を行うことができる。

(2) 考古学的分析を行うに当たっては、(1)のデータベースを基に、時期的な遺物形態の変化をたどり、それをさらに分布図と照らし合わせることによって、時期的にどのように各地へ普及しながら、かつ形態的変遷を遂げるか理解していく。そのために、同時に出土した遺物の年代を分析し、対象資料の年代を定めていく等の考古学的分析も必要になってくる。

(3) 以上の基礎分析をもとにした総合的研究を行う。そのため、文献資料や民俗資料を参照し、具体的な古代農業の実態の理解を目指す。また、東洋史を専門とし実際に中国西南地域で長年にわたる民俗調査を行った農業史家である東海大学渡部武教授、および中国西南地域歴史時代（漢代～唐代）の考古学に詳しい四川大学の李映福教授に毎年指導を仰いだ。

また、長江流域における農業活動の特質を明確にするために、同類の模型・画像資料の出土している黄河流域の事例と比較研究する。特に甘粛省では稲作ではなく畑作を表すものであるが、畑の耕起から収穫に至る一連の農耕活動を表す画像磚が出土しており、比較対象として重要である。その他、稲作活動に伴う農具に関する出土資料も重要であり、鉄製農具・労働人俑などの分析を行い、本研究と関連付けていく。

4. 研究成果

中国国内における資料調査はおおむね順調であった。2008年度に2回、2009年度に3回、2010年度に1回、それぞれ渡航し、四川省（成都市・新津県・新都県・彭山県・宜賓市、西昌市・峨眉山市・樂山市・瀘州市・彭州市）、重慶市、雲南省（昆明市・大理市）、貴州省（貴陽市）、陝西省（漢中市）

の各地で実地に資料調査を行った。ここで、対象資料を収集すると同時に実測・写真撮影を行い、データベース化を進めた。その際、2008年5月12日に発生した四川大地震の影響で、震源地に近い地域の機関では、収蔵資料を全て箱詰めして成都の倉庫に保管し、そのため見る事が適わなかった資料もある。また、若干ではあるが、古い出土資料であるため、その所在が不明になったものすらあった。しかし、予定していた資料のほとんどを実見することができ、また、各機関所蔵の未発表資料を多数見ることができた。他、発掘調査中の漢代崖墓を参観し、模型の副葬状況を確認することができた。この他、現地調査においては、北京農業博物館、南京市博物館においても関連資料を調査することができた。

以上の基礎資料から研究を進め、下記の5に記載した論文発表及び学会報告を随時進めていった。主な研究成果の一つは、生業の様子を表した模型や画像という、型式分類の要素を見出しにくい資料に対し、客観的な判断基準を設けて分類・編年を行ったことである。特に画像資料は、一見すると何らかの活動状況を表していると感じるのであるが、物としての変化をたどると、その基となった黄河流域の画像の構成原理を維持しているこ

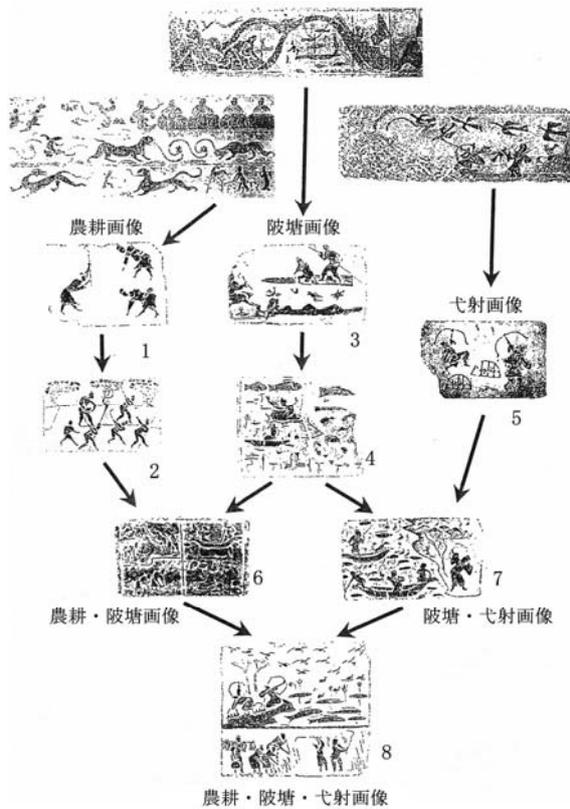


図1 生業画像の系譜

とが分かり、それを理解しなければ、その画像にどれだけ当地の実情が盛り込まれているかを把握できない。こういった分析をすることで初めて関連の模型・画像資料を、農業史を理解するための史料として活用することができるのであり、今回達成した成果は、同様の研究のモデルケースとしても有用なものとなった(図1)。

他にも考古学的分析においては、対象とする地域だけではなく、中国全国で出土した漢代の副葬模型を集成し分布図を作成した。それにより本研究で扱う資料がどのように発生・発展したか、模型資料全体の中で把握することができ、そうすることで、長江流域において、当時の人々がどのような意図で水田模型を墓に副葬したかが明らかになり、そういった模型使用の精神的意義を知ることで、模型にどこまで生業活動の実情が盛り込まれているかを明確にできた。

また研究の副産物であるが、画像資料のデータベース化の過程で、多数の報告資料において出土地などに間違いが多いことが判明した。そのため厳密に史料批判を行い、こういった考古資料を歴史資料として活用する方法を確立することができたといえる。

研究の公開においては、国内機関だけでなく、海外でも報告を行うことができ(5[学会発表]の④)、本研究を現地の研究者に公開すると同時に、現地ならではの多くの知見を提供してもらった(図2)。



図2 貴州省文物考古研究所における研究報告

以上の研究を総括したものとして、報告書1冊を作成している(図3、5の〔図書〕)。これはあくまで関係機関・研究者への配布用のものであり、将来の出版を目指す必要がある。

この他、東京国立科学博物館において開催された企画展『あしたのごはんのために一田んぼから見える遺伝子多様性』(2010年9月18日～2011年1月16日)において、本研究で収集した資料の一部を、参考資料として提供した(<http://www.kahaku.go.jp/event/2010/09gohan/index.html>)。

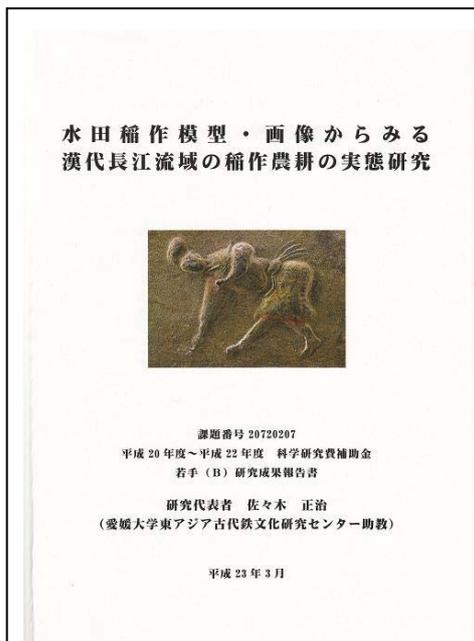


図3 成果報告書

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

①佐々木正治「考古資料から見る漢代蜀郡の交通」愛媛大学「資料学」研究会『資料学の方法を探る(9)』愛媛大学法文学部2010年、p.41-49、査読無

②佐々木正治「漢代四川に鉄犁牛耕は存在したか」愛媛大学人文学会編『人文学論叢』第11号2009年、p.127-133、査読無

③佐々木正治「陂塘水田模型からみる中国漢代西南地域の水利と稲作」『中国水利史研究』第38号2009年、p.1-13、査読有

④佐々木正治「四川出土の舂米図について」『愛媛大学法文学部論集 人文学科編』第二十七号2009年、p.109-132、査読無

⑤佐々木正治「漢代の“耒”をもつ陶俑に関する覚書」愛媛大学人文学会編『人文学論叢』第10号2008年、p.21-29、査読無

⑥佐々木正治「漢中出土の陂塘水田模型について」『愛媛大学法文学部論集 人文学科編』第二十五号2008年、p.141-164、査読無

〔学会発表〕(計8件)

①佐々木正治「四川農業画像磚から見る漢代墓葬画像の発展と系譜—四川と甘肅の比較から—」『新潟大学国際ワークショップ 磚画・壁画の環東アジア』2011年3月5日

②佐々木正治「漢代陂塘水田模型の型式学的研究」『日本中国考古学会関東部会第140回例会』2010年10月23日 東京大学

③佐々木正治「中国西南地域出土陂塘水田模型の考古学的研究」『考古学研究会9月例会』2010年9月11日 岡山大学

④佐々木正治「陂塘水田模型の型式学的研究」『研究発表』2010年3月2日 貴州省文物考古研究所

⑤佐々木正治「漢代四川生業関連画像磚の考古学的研究」『日本中国考古学会関東部会第134回例会』2009年10月10日 東京大学

⑥佐々木正治「考古資料から見る漢代蜀郡の交通」『2009年度資料学研究会シンポジウム 東アジアの交通遺跡と出土資料』2009年9月12日 愛媛大学

⑦佐々木正治「アジアの米搗き—中国漢代の画像より」『第4回 アジア歴史講演会』2009年6月27日 愛媛大学

⑧佐々木正治「陂塘水田模型から見る中国漢代西南地域の水利と稲作」『平成20年度水利史研究会大会』2008年11月2日 明石市生涯学習センター

〔図書〕(計1件)

【研究成果報告書】佐々木正治『水田稲作模型・画像からみる漢代長江流域の稲作農耕の実態研究』2011年3月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐々木 正治 (SASAKI MASAHARU)
愛媛大学・東アジア古代鉄文化研究
センター・助教

研究者番号：60457380